

SigmaSystemCenter

概要

SigmaSystemCenter (シグマシステムセンター) は、プラットフォームの統合管理ソフトウェアです。サーバ、ストレージ、ネットワークといった物理リソース、仮想環境、及びパブリッククラウド環境の統合管理を実現します。物理・仮想の関連を容易に把握することができるため、管理者の負担を大幅に軽減し、システム管理コストを削減できます。また、システムの稼動状態や負荷状況を常に監視し、稼動率レポートやパッチ配信などの日常業務から、障害時の自動対応や高負荷時の負荷平準化などの自律運用まで、物理環境、仮想環境、パブリッククラウド環境の区別なくプラットフォーム管理に必要な機能を一元的に提供します。

特長

- 物理環境、仮想環境、パブリッククラウド環境の統合管理

物理環境、仮想環境、パブリッククラウド環境の区別なく、各リソースの稼働状態の把握や電源の ON / OFF、マシンの増設などを一元的に管理することができます。

- 仮想環境のリソース利用の見える化

CPU やメモリ、ディスクなど仮想マシンを構成するリソースをリソースプールとしてシンプルに一元管理し、必要なリソースを効率的に使用することができます。

リソースプールで全体の稼働率を把握すると共に仮想化ホストや仮想マシンの稼働率も合わせて稼働率レポートとして出力でき、定期的なヘルスチェックで利用できます。

また、タイムライン機能により、仮想マシンの過去の配置/状態の変更タイミングの履歴を簡易に確認することができます。

- シンプルな設定で強力な自律運用を実現

用意された復旧方法を選択することにより、万一の障害発生時でも自動復旧させることができます。VMware, Hyper-V などの仮想化ソフトウェアでは実現できない、予兆障害を契機とした仮想マシンの退避による業務サービスをとめない高可用性の提供や、仮想マシン退避後に事前登録した配置状態への迅速な切り戻しが可能です。

最新の情報を SigmaSystemCenter の Web サイトに公開しています。

<https://jpn.nec.com/websam/sigmasytemcenter/>

製品ラインナップ

システム規模や利用する機能に応じて3つのエディション、1つのパック製品、1つの機能限定製品を用意しています。

SigmaSystemCenter Basic Edition

8台までのマシンを管理可能な小規模システム向けのエディションです。Standard Editionのすべての機能を使用することができます。

クラスタ構成には、対応していません。クラスタ構成で運用される場合、SigmaSystemCenter Standard Edition、またはSigmaSystemCenter Enterprise Editionを使用してください。

仮想環境、パブリッククラウド環境の管理を行う場合は、別途仮想サーバ管理オプションが必要です。

SigmaSystemCenter Standard Edition

100台までのマシンを管理可能な中規模システム向けのエディションです。

仮想環境、パブリッククラウド環境の管理を行う場合は、別途仮想サーバ管理オプションが必要です。

SigmaSystemCenter Enterprise Edition

管理台数に制限のない大規模システム向けのエディションです。Standard Editionの機能に加え、Cisco UCSの管理、およびProgrammableFlow Controllerを制御することができます。

Enterprise Editionには、仮想サーバ管理オプション、およびNetwork Appliance Control オプション(10)が含まれます。

SSC 小規模仮想化運用パック

仮想化ホスト3台までの小規模仮想環境を管理するために必要なライセンスをパック価格で提供します。

VMware環境、Hyper-V環境の管理が可能です。

詳細は、以下のWebサイトを参照してください。

https://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/small_scale_virtualization_pack.html

SSC 電源制御限定版

SigmaSystemCenterの電源制御機能のみを利用する環境向けの製品です。ターゲットライセンスなしで利用できます。管理対象マシンは5台までです。

本体製品

システム規模や利用する機能に応じて、3つのエディションと1つの機能限定製品から選択してください。
また、管理サーバを追加することができるライセンスも用意しています。

SigmaSystemCenter Basic Edition

SigmaSystemCenter Standard Edition

SigmaSystemCenter Enterprise Edition

管理サーバ追加ライセンス

SigmaSystemCenter 管理サーバを1台追加することができるライセンスです。2台以上のSigmaSystemCenter 管理サーバを構築する場合、2台目以降の管理サーバに対して、管理サーバ追加ライセンスを利用することができます。

SSC 電源制御限定版

電源制御に関連する機能のみが利用可能です。

管理対象マシンは5台までです。ターゲットライセンスやオプションライセンスなしで利用できます。

アップグレードライセンス

各エディションの本体製品もしくは管理サーバ追加ライセンスを上位製品にアップグレード(「小規模仮想化運用パックから Basic Edition」または「Basic Edition から Standard Edition」または「Standard Edition から Enterprise Edition」)するライセンスです。初期段階は下位製品(小規模仮想化運用パックや Basic Edition や Standard Edition)でスマートスタートし、後で管理範囲を広げる場合に利用することができます。

ターゲットライセンス

SigmaSystemCenter のターゲットライセンスには、以下の2種類があります。

SigmaSystemCenter で仮想環境を管理する場合は、OS ターゲットライセンス、または VM ホストソケットライセンスのいずれかを選択して使用してください。仮想マシンと物理マシンを統合管理する場合は、仮想マシンに対しては VM ホストソケットライセンスを、物理マシンに対しては OS ターゲットライセンスを使用していただけます。

OS ターゲットライセンス

マシン(OS) 単位のライセンスです。管理対象マシンの稼動 OS 数に対応しています。
SigmaSystemCenter で管理するマシン(OS)と同数のターゲットライセンスを用意してください。

VM ホストソケットライセンス

仮想環境管理に特化した、VM ホスト(仮想化ホスト) 単位のライセンスです。VM ホストの物理 CPU ソケット

ト数に対応しています。

SigmaSystemCenter で管理する仮想化ホストに搭載される物理 CPU ソケット数と同数のライセンスを用意してください。一つの物理 CPU ソケットあたりのコア数により、以下の 4 種類のライセンスがあります。CPU のコア数に応じて選択してください。

- VM ホストソケット (1-8Core) ライセンス
- VM ホストソケット (9-16Core) ライセンス
- VM ホストソケット (17-32Core) ライセンス
- VM ホストソケット (無制限) ライセンス

VM ホスト上で稼動する仮想マシンに対しては、ターゲットライセンスを用意する必要はありません。

本体用オプション

本体用オプションライセンスとして以下を用意しています。利用する運用形態にあわせて用意してください。管理サーバごとにライセンスを 1 本用意してください。

仮想サーバ管理オプション

VMware/Hyper-V/XenServer/KVM 環境で稼動する仮想マシンを管理する場合に必要なオプションです。SigmaSystemCenter から、仮想マシンの作成/ 移動/ 電源制御を行うことができます。また、ポリシーを利用した障害復旧や最適配置などの機能を使用することができます。

パブリッククラウド環境上のマシンを管理する場合も本オプションが必要です。

Basic Edition または Standard Edition で仮想環境を管理する場合は SigmaSystemCenter 管理サーバ毎に購入してください。このオプションは、Enterprise Edition には含まれています。

管理サーバクラスタライセンス

SigmaSystemCenter 管理サーバをクラスタ構成で運用する場合に必要なライセンスです。待機サーバ 1 台につき本ライセンスが 1 本必要です。

ターゲット用オプション

管理・作成する台数に合わせて用意してください。

Differential Clone オプション

ターゲットライセンスに追加するオプションです。SigmaSystemCenter の Differential Clone 機能により仮想マシンを作成/管理する場合に必要なライセンスです。

SigmaSystemCenter で管理予定の Differential Clone 仮想マシン台数分のオプションを用意してください。

Network Appliance Control オプション

ネットワーク・アプライアンス製品(ソフトウェアロードバランサ、またはファイアウォールアプライアンス)を管理する場合に必要なオプションです。ソフトウェアロードバランサ、またはファイアウォールアプライアンスの合計台数分のオプションを用意してください。

Enterprise Edition には、10 台分の Network Appliance Control オプションが含まれています。

動作環境

最新の動作環境や注意事項を SigmaSystemCenter の Web サイトにて公開しています。

<https://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/dousa.html>

SigmaSystemCenter を使用する場合には、「本体製品」と「ターゲットライセンス」が必要となります。また、利用する機能によってはオプション製品が必要になる場合があります。

本体製品を選択する際のポイント

本体製品には、管理するシステムの規模や構成ごとに Basic, Standard, Enterprise の 3 つの Edition と 1 つの機能限定製品が用意されています。

各 Edition は管理可能な物理サーバ数および仮想マシン数の上限に差があり、上位の Edition ほど多くのサーバが管理できます。（「管理対象台数」の数え方は以下で説明します）

ただし Cisco UCS を管理する場合は、管理対象サーバの総数にかかわらず Enterprise Edition を選択する必要があります。

Basic Edition および Standard Edition は、上位の Edition にアップグレード(別途ライセンスが必要)することができます。

- 管理対象マシン台数による Edition の選択

- 管理対象マシン台数の合計が 8 台以下のは、Basic Edition を選択します。
- 管理対象マシン台数の合計が 100 台以下のは、Standard Edition を選択します。
- 管理対象マシン台数の合計が 101 台を超えるのは、Enterprise Edition を選択します。
- SSC 電源制御限定版では管理対象マシン台数は 5 台までです。

- 管理対象マシン台数のカウント方法

SigmaSystemCenter は物理マシン環境と仮想環境(仮想マシン)を管理することができます。それ故以下のようにカウントします。

物理マシン(Windows/Linux)環境を管理する場合

- SigmaSystemCenter が同時に稼働管理(SigmaSystemCenter のポリシー機能を適用する、ソフトウェア配信する、などの処理を行う)する物理マシンの数が管理対象マシンの台数と考えます。
- 同じ台数の物理マシンが存在していても、運用方法によって管理対象マシンの数が異なることがあります。

例 1: 業務 A 用サーバ 1 台、業務 B 用サーバ 1 台、予備サーバ 1 台で N+1 構成を行う場合

業務 A サーバまたは業務 B サーバが障害で停止した場合に、SigmaSystemCenter は予備機を使って停止した業務の代替サーバを構成して稼働させます。この場合、同時に稼働するのは正常時も障害時も最大 2 台です。したがって、この構成の管理対象マシンは 2 台と考えます。

例 2: 業務 A 用サーバ 2 台、予備機 1 台で 業務 A のスケールアウトを行う場合

業務 A の負荷が上昇した場合に、SigmaSystemCenter は予備サーバを業務 A サーバとして追加構成します。この結果、通常時の稼働サーバは 2 台ですが、高負荷時には最大 3 台が同時に稼働することになります。したがって、この構成の管理対象マシンは 3 台と考えます。

仮想環境を管理する場合

- 仮想環境(VMware/Hyper-V/XenServer/KVM)を管理する場合には、「仮想化ホストをベースにしたカウント方法」と「仮想マシン(ゲストOS)をベースにしたカウント方法」があります。

仮想化ホストをベースにしたカウント方法

仮想化ソフトウェア(VMware ESX/ESXi, XenServer, Hyper-V, KVM)がインストールされた物理マシン(仮想化ホスト)の台数を管理対象マシンの台数と考えます。この場合、仮想マシンの台数はカウント対象となりませんので、何台でも登録することができます。SSC 電源制御限定版は仮想化ホストベースのカウント方法となります。

例:3台のESX上に仮想マシンが合計30台ある環境

「仮想化ホストをベースにしたカウント方法」を選択した場合は、管理対象台数は3台と考えます。

仮想マシンをベースにしたカウント方法

全ての仮想マシンの台数を管理対象マシンの台数と考えます。一部の仮想マシンを管理対象から外すことはできません。

この場合、仮想化 SW がインストールされた物理マシン(仮想化ホスト)の台数はカウント対象となりませんので、何台でも登録できます。

例:3台のESX上に仮想マシンが合計30台ある環境

「仮想マシンをベースにしたカウント方法」を選択した場合は、管理対象台数は30台と考えます。

パブリッククラウド環境を管理する場合

- SigmaSystemCenter が同時に稼働管理するパブリッククラウド環境上のマシンの台数 20 台につき、1 台としてカウントします。パブリッククラウド環境内の物理マシン(仮想化ホスト)1 台で、20 台までの仮想マシンの管理が可能という前提で、仮想的に物理マシン(仮想化ホスト)の台数を考えます。

例:60台のパブリッククラウド上のマシンがある環境

管理対象台数は 3 台と考えます。

● SigmaSystemCenter 管理サーバ追加ライセンス

- 1 台の SigmaSystemCenter 管理サーバで管理ができるマシンの台数は、約 200 台です (SigmaSystemCenter 管理サーバの HW スペックに依存します)。
この台数を超えるマシンを管理する場合、あるいはマシンの管理範囲を明確に区分したい場合は、必要に応じて SigmaSystemCenter 管理サーバを複数台構築することができます。このような場合に利用するのが SigmaSystemCenter 管理サーバ追加ライセンスです。一つの SigmaSystemCenter 管理サーバ追加ライセンスで、SigmaSystemCenter 管理サーバを 1 台構成することができます。
- 管理サーバ追加ライセンスは Edition ごとに異なります。管理サーバを追加する場合は、全て本体製品と同じ Edition の管理サーバ追加ライセンスを使用してください。異なる Edition の管理サーバ追加ライセンスを使用することはできません。
- 管理サーバ追加ライセンスで追加された SigmaSystemCenter 管理サーバは、互いを冗長構成(クラスタ構成)の相手にすることはできません。追加した SigmaSystemCenter 管理サーバごと

に待機系サーバを準備する必要があります。

- SSC 電源制御限定版では管理サーバ追加ライセンスを利用できません。

ターゲットライセンスを選択する際のポイント

- OS ターゲットライセンス

管理対象が物理マシン(Windows/Linux)の場合、または仮想環境における「仮想マシンをベースにしたカウント方法」を選択した場合、ターゲットライセンスが必要です。

- 物理マシン台数分または仮想マシン台数分と同じ数のターゲットライセンスが必要です。
- 物理マシンと仮想環境を混在管理する場合でも、物理マシンと仮想マシンの区別はありません。物理マシン台数と仮想マシン台数の合計と同じ数のターゲットライセンスが必要です。
- SSC 電源制御限定版ではターゲットライセンスは必要ありません。

- VM ホストソケットライセンス

仮想環境における「仮想化ホストをベースにしたカウント方法」を選択した場合、VM ホストソケットライセンスが必要です。

- 管理対象となる仮想化ホストに搭載された CPU の総数と同じ数の VM ホストソケットライセンスが必要です。
- 一つの物理 CPU ソケットあたりのコア数により、以下の 3 種類のライセンスがあります。CPU のコア数に応じて選択してください。
 - ・ VM ホストソケット (1-8Core) ライセンス
 - ・ VM ホストソケット (9-16Core) ライセンス
 - ・ VM ホストソケット (17-32Core) ライセンス
 - ・ VM ホストソケット (無制限) ライセンス
- 物理マシン(Windows/Linux)と仮想環境を混在管理する場合、物理マシンに対しては別途ターゲットライセンスが必要です。
パブリッククラウド環境のマシンを管理する場合も、VM ホストソケットライセンスが必要です。
- パブリッククラウド上のマシンを管理する場合には、以下のライセンスを選択してください。他のコア数のソケットライセンスはパブリッククラウド環境管理の用途で使用できませんので、注意してください。
 - ・ VM ホストソケット (9-16Core) ライセンス
- 1 ライセンスあたり、10 台までのパブリッククラウド上のマシンを管理することが可能です。
- SSC 電源制御限定版ではターゲットライセンスは必要ありません。

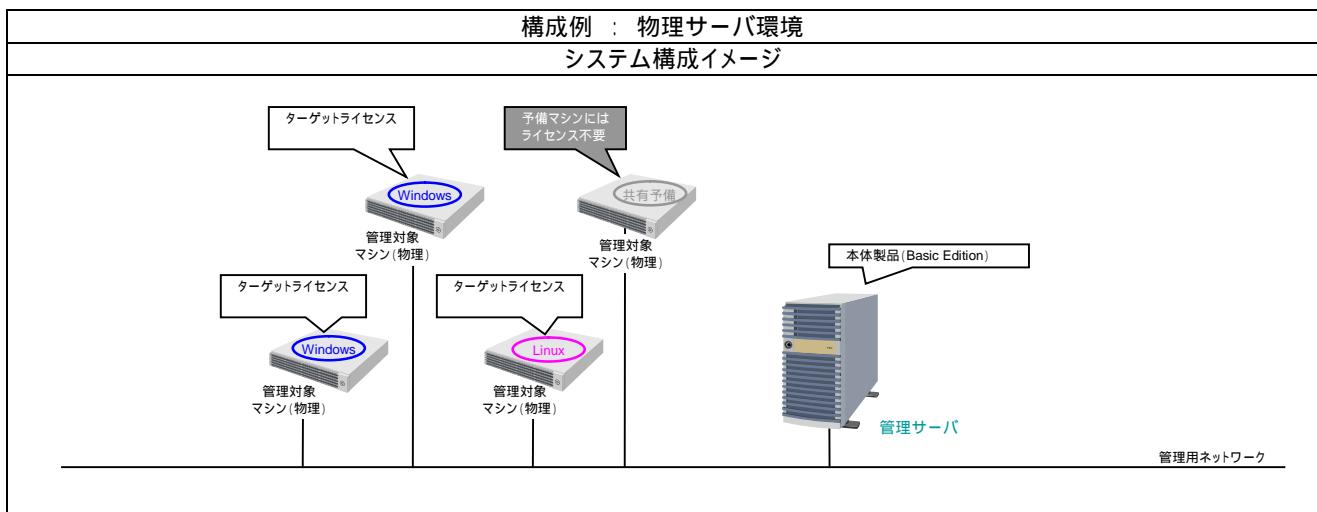
オプションを選択する際のポイント

- 仮想基盤上に作成した仮想マシンを管理する場合

仮想サーバ管理オプションライセンスが必要です。

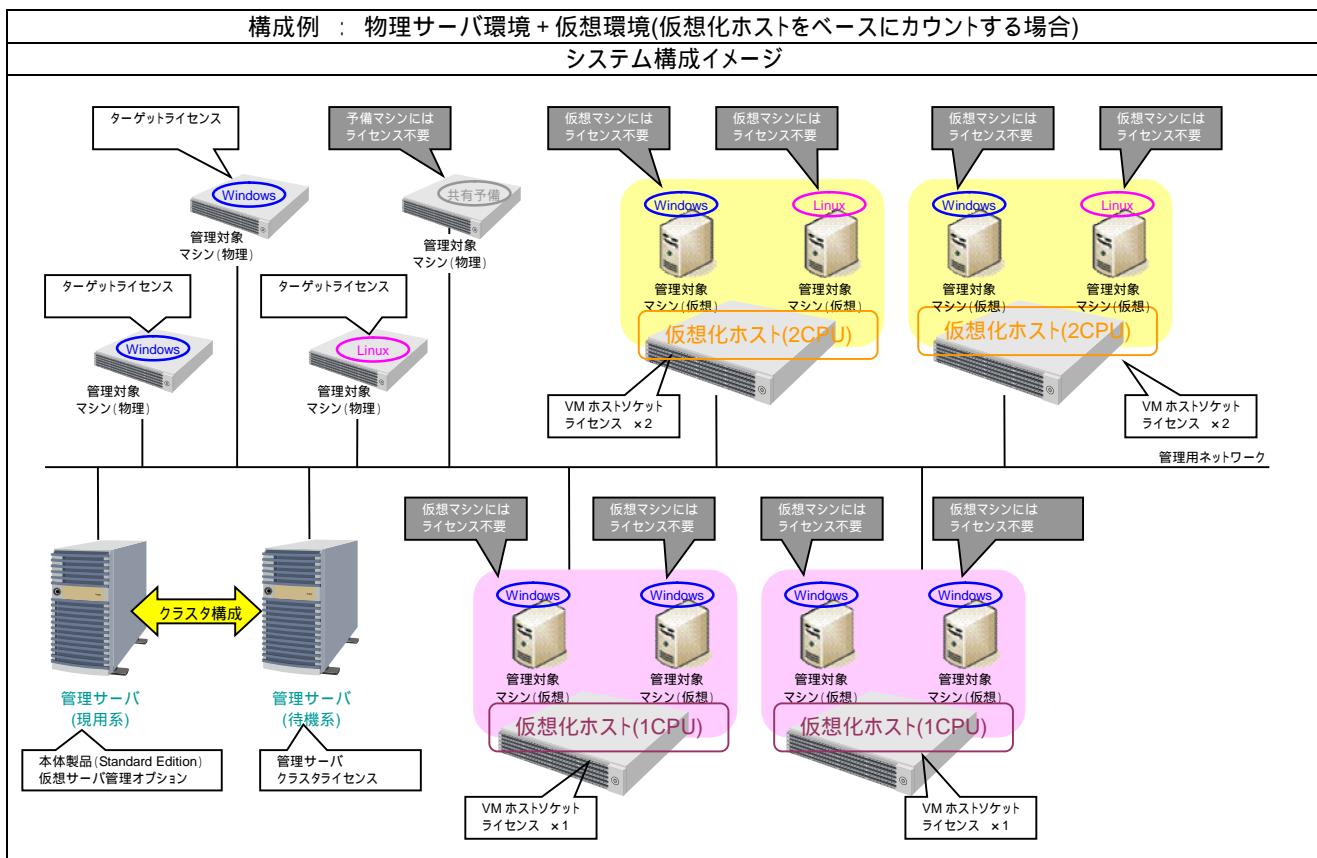
- SigmaSystemCenter 本体製品として Basic Edition または Standard Edition を選択している場合は、仮想環境を管理する SigmaSystemCenter 管理サーバと同数(「本体製品で構築した管理サーバ」と「管理サーバ追加ライセンスで構築した管理サーバ」の合計数)の仮想サーバ管理オプションライセンスが必要です。

- SigmaSystemCenter 本体製品として Enterprise Edition を選択している場合は、仮想サーバ管理オプションは不要です(SigmaSystemCenter 本体製品に含まれるため)。
 - 管理サーバが冗長構成(クラスタ構成)となっている場合は、稼働系となっている管理サーバのみにライセンスが必要です(待機系の管理サーバには不要)。
 - SSC 電源制御限定版では仮想サーバ管理オプションライセンスは必要ありません。
-
- 管理サーバを冗長構成(クラスタ構成)にする場合
管理サーバクラスタライセンスが必要です。
 - SigmaSystemCenter 本体製品として Standard Edition を選択している場合は Standard Edition 用管理サーバクラスタライセンスを、Enterprise Edition を選択している場合は Enterprise Edition 用管理サーバクラスタライセンスを追加します。待機系サーバと同数の管理サーバクラスタライセンスが必要です。
 - Basic Edition と SSC 電源制御限定版は、冗長構成にはできません。
-
- Differential Clone の機能を使って仮想マシンを作成する場合
Differential Clone オプションが必要です。
 - Differential Clone で作成する VM と同数の Differential Clone オプションが必要です。
-
- ネットワーク・アプライアンス製品を管理する場合
Network Appliance Control オプションが必要です。
 - SigmaSystemCenter で管理するネットワーク・アプライアンス製品の台数分のオプションを用意してください。
 - Enterprise Edition は、10 台分の Network Appliance Control オプションが含まれています。
-
- ProgrammableFlow Controller を管理する場合
PFC Control オプションが必要です。
 - オプションを追加することで ProgrammableFlow Controller は台数制限なく管理可能となります。
 - Enterprise Edition は、PFC Control オプションが含まれています。



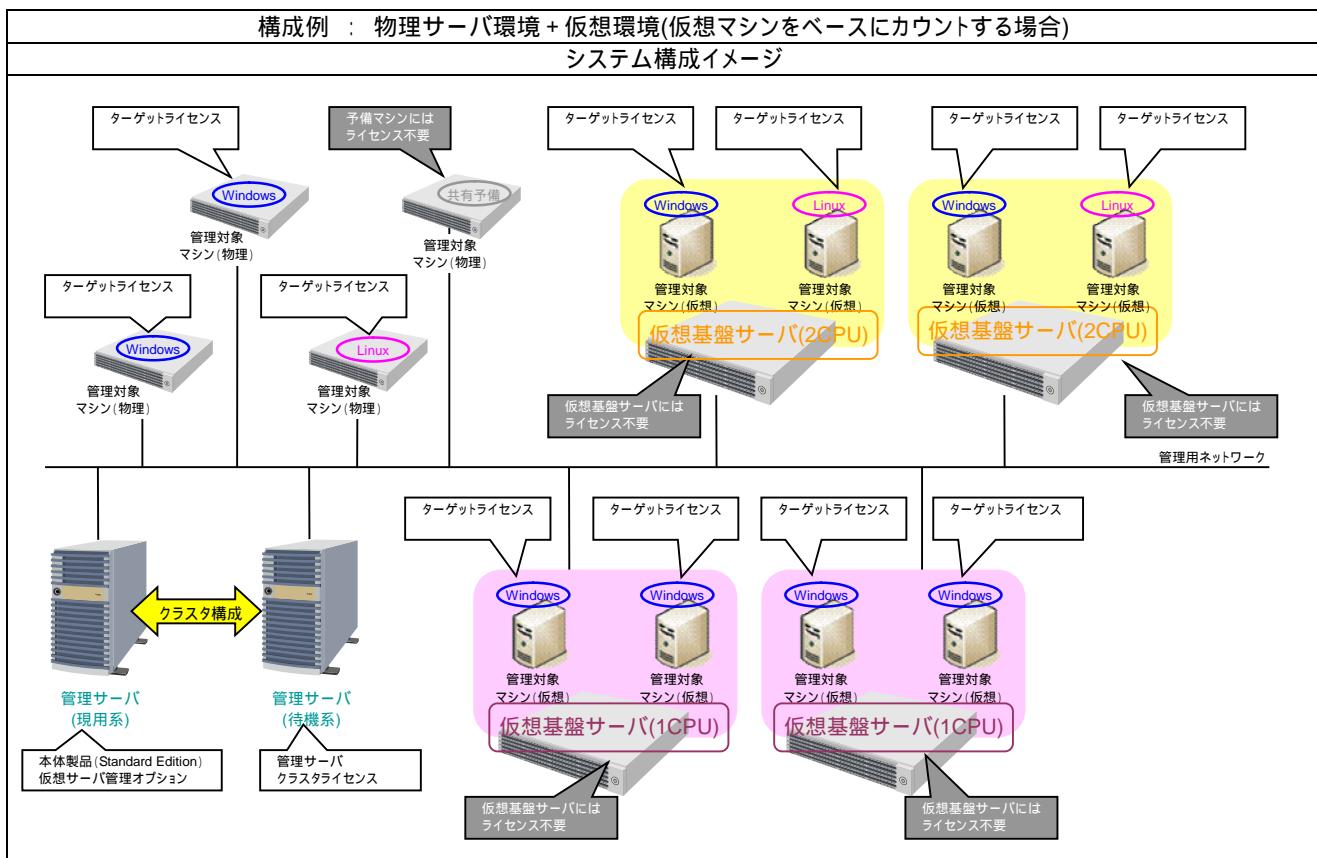
- 管理対象の物理マシンは3台
ターゲットライセンスを3本
- 予備マシンは1台
予備マシンにはライセンスは不要
- 管理対象マシンの合計が8台以下
本体製品はBasicEditionを選択

型番	製品名	数量	希望小売価格(円)	合価(円)	月額標準サポート料金(円)	月額標準サポート料金合価(円)
UL1251-G0S-I	SigmaSystemCenter 3.7 Basic Edition	1	400,000	400,000	5,000	5,000
UL1251-G0K-I	SigmaSystemCenter 3.7 ターゲットライセンス(1)	3	100,000	300,000	1,300	3,900
		合計 価格	700,000			8,900



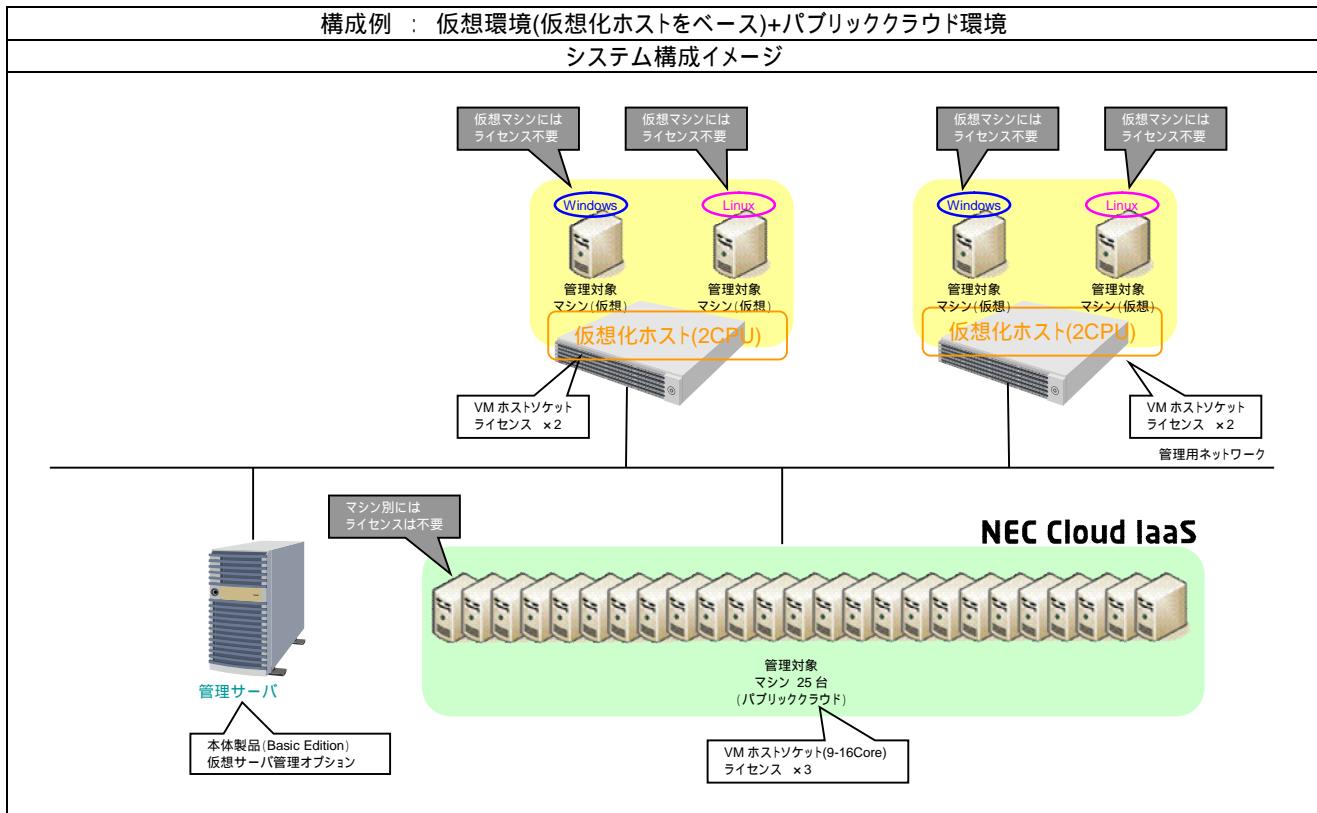
- 管理対象の物理マシンは 3 台
ターゲットライセンスを 3 本
- 予備マシンは 1 台
予備マシンにはライセンスは不要
- 仮想化ホストの物理 CPU ソケット数は 6 個 ($2+2+1+1 = 6$)
VM ホストソケットライセンスは合計 6 本
- CPU のコア数は 8 コア以下。
VM ホストソケット (1-8Core) ライセンスを選択
- 仮想マシンは 8 台
仮想化ホストをベースにカウントする場合は、仮想マシンにはライセンス不要。
- 仮想環境を管理
仮想サーバ管理オプションを 1 本
- 管理サーバはクラスタ構成
管理サーバクラスタオプションを 1 本
- 管理対象マシンの合計が 8 台以下 (物理マシン 3 台 + 仮想化ホスト 4 台 = 7 台)
ただし、管理サーバはクラスタ構成
本体製品は StandardEdition を選択

型番	製品名	数量	希望小売価格(円)	合価(円)	月額標準サポート料金(円)	月額標準サポート料金合価(円)
UL1251-G0C-I	SigmaSystemCenter 3.7 Standard Edition	1	1,000,000	1,000,000	12,500	12,500
UL1251-G0N-I	SigmaSystemCenter 3.7 仮想サーバ管理オプション	1	200,000	200,000	2,500	2,500
UL1251-G0R-I	SigmaSystemCenter 3.7 Standard Edition 管理サーバクラスタライセンス	1	400,000	400,000	5,000	5,000
UL1251-G0K-I	SigmaSystemCenter 3.7 ターゲットライセンス(1)	3	100,000	300,000	1,300	3,900
UL1251-G0U-I	SigmaSystemCenter 3.7 VMホストソケット (1-8Core) ライセンス(1)	6	150,000	900,000	1,900	11,400
		合計 価格		2,800,000		35,300



- 管理対象マシンは 11 台 (物理マシン 3 台 + 仮想マシン 8 台 = 11 台)
ターゲットライセンスを 11 本
- 予備マシンは 1 台
予備マシンにはライセンスは不要
- 仮想化ホストは 4 台
仮想マシンをベースにカウントする場合、仮想化ホストにはライセンス不要
- 仮想環境を管理
仮想サーバ管理オプションを 1 本
- 管理サーバはクラスタ構成
管理サーバクラスタオプションを 1 本
- 管理対象マシンの合計が 8 台以上 (物理マシン 3 台 + 仮想マシン 8 台 = 11 台)
本体製品は StandardEdition を選択

型番	製品名	数量	希望小売価格 (円)	合価 (円)	月額標準 サポート料金 (円)	月額標準 サポート料金合価 (円)
UL1251-G0C-1	SigmaSystemCenter 3.7 Standard Edition	1	1,000,000	1,000,000	12,500	12,500
UL1251-G0N-1	SigmaSystemCenter 3.7 仮想サーバ管理オプション	1	200,000	200,000	2,500	2,500
UL1251-G0R-1	SigmaSystemCenter 3.7 Standard Edition 管理サーバクラスタライセンス	1	400,000	400,000	5,000	5,000
UL1251-G0K-1	SigmaSystemCenter 3.7 ターゲットライセンス(1)	1	100,000	100,000	1,300	1,300
UL1251-G2K-1	SigmaSystemCenter 3.7 ターゲットライセンス(10)	1	900,000	900,000	11,300	11,300
		合計 価格	2,600,000		32,600	

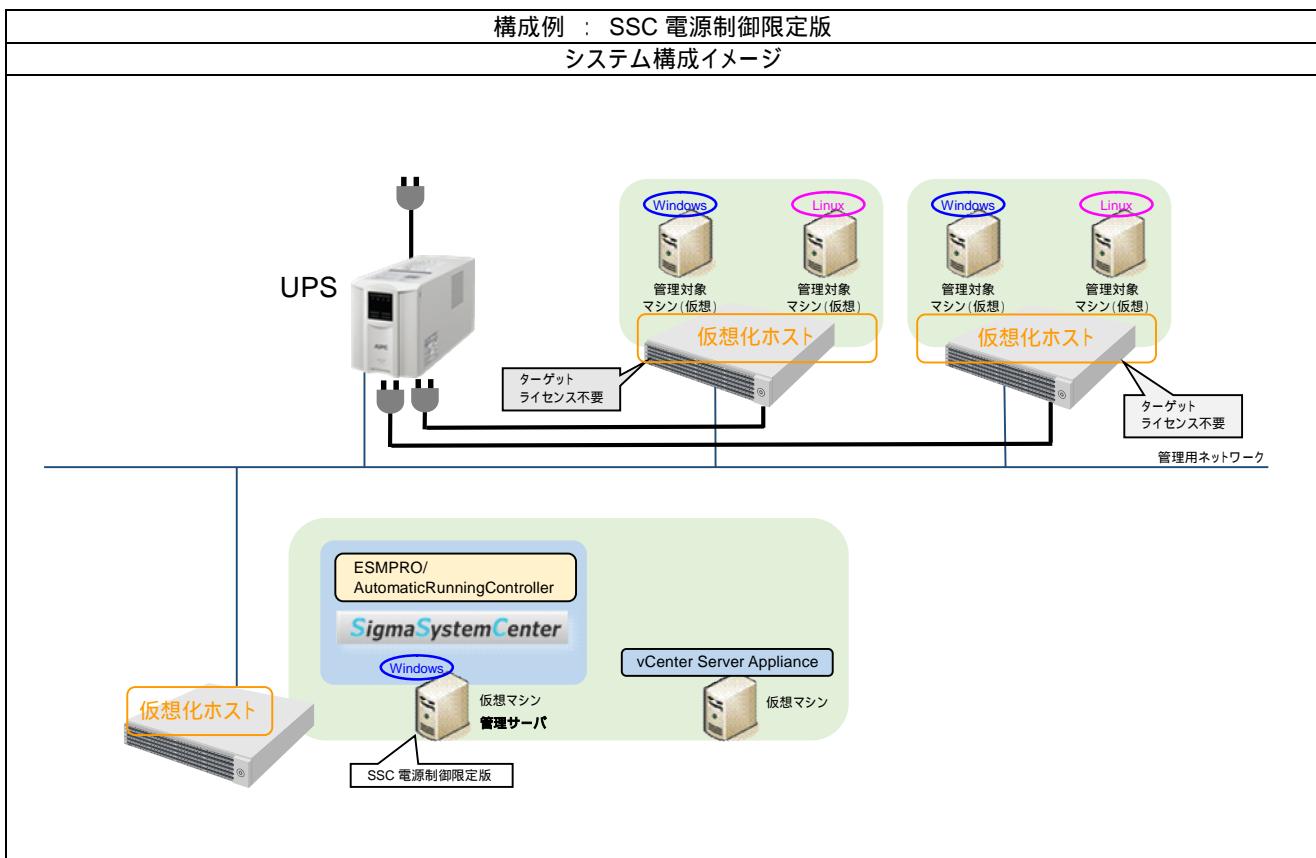


- 仮想化ホストの物理 CPU ソケット数は 4 個 ($2+2=4$)
VM ホストソケットライセンスは合計 4 本
- CPU のコア数は 8 コア以下。
VM ホストソケット (1-8Core) ライセンスを選択
- 仮想マシンは 4 台
仮想化ホストをベースにカウントする場合は、仮想マシンにはライセンス不要。
- パブリッククラウド上のマシンは 25 台
VM ホストソケット (9-16Core) ライセンスは 3 本()
- 仮想環境、パブリッククラウド環境を管理
仮想サーバ管理オプションを 1 本
- 管理対象マシンの合計が 8 台以下 (仮想化ホスト 2 台+(パブリッククラウド上の) 仮想化ホスト 2 台()=4 台)
本体製品は BasicEdition を選択

()パブリッククラウド環境について、ライセンスのカウント方法と本体製品の選択の際の台数カウント方法の考え方が、以下の通り、異なりますので注意してください。

- ・ VM ホストソケット (9-16Core) ライセンスは、パブリッククラウド上のマシン **10** 台につき 1 つ必要。
- ・ 本体製品の選択では、パブリッククラウド上のマシン **20** 台につき仮想化ホスト 1 台とカウント

型番	製品名	数量	希望小売 価格(円)	合価 (円)	月額標準 サポート料金 (円)	月額標準 サポート料金 合価(円)
UL1251-G0S-I	SigmaSystemCenter 3.7 Basic Edition	1	400,000	400,000	5,000	5,000
UL1251-G0N-I	SigmaSystemCenter 3.7 仮想サーバ管理オプション	1	200,000	200,000	2,500	2,500
UL1251-G0U-I	SigmaSystemCenter 3.7 VMホストソケット (1-8Core) ライセンス(1)	4	150,000	600,000	1,900	7,600
UL1251-G0AA-I	SigmaSystemCenter 3.7 VMホストソケット (9-16Core) ライセンス(1)	3	225,000	675,000	2,900	8,700
		合計 価格		1,875,000		23,800



- SSC の利用機能は電源制御関連機能のみ
本体製品は SSC 電源制御限定版を選択。
- 管理対象の仮想化ホストは 2 台
SSC 電源制御限定版の場合、ターゲットライセンスは不要
- 仮想環境を管理
SSC 電源制御限定版の場合、仮想サーバ管理オプションは不要
- 管理対象マシンの合計が 5 台以下 (仮想化ホスト 2 台)
5 台を超える場合は Basic Edition 以上が必要。

型番	製品名	数量	希望小売価格(円)	合価(円)	月額標準サポート料金(円)	月額標準サポート料金合価(円)
UL1251-G0AK-I	SSC3.7電源制御限定版	1	200,000	200,000	2,500	2,500
		合計 価格	200,000			

見積もり時の注意事項

- SigmaSystemCenter 管理サーバの冗長構成は、アクティブ・スタンバイ型のクラスタ構成のみサポートします。
- SigmaSystemCenter 管理サーバをクラスタ構成にする場合は、別途クラスタリングソフト(推奨:CLUSTERPRO X)とデータベースソフトが必要です。対応データベースソフトは以下の通りです。
 - Microsoft SQL Server
Microsoft SQL Server Standard Edition 以上の購入、及び、PP サポートサービスの契約が必要です。必要なライセンス構成/ライセンス数については、製品担当者に確認してください。
 - PostgreSQL
SigmaSystemCenter の媒体に含まれないため、別途ダウンロードが必要です。PostgreSQL のサポートは、SigmaSystemCenter の構成情報データベースとしての利用用途に限定して、SigmaSystemCenter の PP サポートサービスの契約で可能です。
- 管理対象マシン(物理マシン)にストレージが接続されている場合は、別途ストレージ制御ソフトウェアが必要です。
- 管理対象マシン上で動作するアプリケーションは、各製品のライセンスポリシーにしたがって必要数を購入してください。予備マシンに対するライセンスの要・不要の詳細については、各製品の担当者に確認してください。
- N+1 構成の場合、本番稼動するマシンと障害発生時に切替え先となる予備マシンは機種・HW 構成を同一にする必要があります。
- N+1 リカバリ機能は、物理マシン(Windows/Linux)環境における可用性向上機能です。仮想環境における N+1 リカバリ機能は、SIGMABLADe の vIO コントロール機能との連携で実現します。vIO コントロール機能に対応した仮想化ソフトウェアについては、別途お問い合わせください。